

新学習指導要領の趣旨を生かした授業づくり

小学校特別活動

1 改訂の趣旨

- 特別活動で育成する資質・能力を全体目標でより一層明確化
- 各内容ごとに新たに目標を明示
- 発達や学年の課題に即した内容の明示

2 改訂の要点

(1) 目標

ア 特別活動の目標 ※下線は、後に示す「各活動・学校行事」の目標に反映されている箇所を示す。

望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、自己の生き方についての考えを深め、自己を生かす能力を養う。

イ 目標の改善

(ア) 「人間関係づくり」

(イ) 「自己の生き方についての考えを深め、自己を生かす能力を養う」 } が加えられた。

ウ 目標改善の背景

(ア) よりよい人間関係が築けない児童の増加など、今日的な課題を踏まえ、特別活動の目標がよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる教育活動であることをより一層明確にするため、「人間関係」が加えられた。

(イ) 道徳の改善を踏まえて、道徳的実践の指導の充実を図る観点や、中学校との関連を踏まえて、「自己の生き方についての考えを深め、自己を生かす能力を養う」が加えられた。

(2) 各活動・学校行事の目標及び内容（具体は、次ページ参照）

ア 学級活動

(ア) 新たに目標を示すとともに、低・中・高学年ごとに「内容」を示した。

(イ) いずれの学年においても取り扱う内容を〔共通事項〕として示した。

イ 児童会活動

(ア) 新たに目標を示すとともに、三つの内容を示した。

ウ クラブ活動

(ア) 新たに目標を示すとともに、三つの内容を示した。

エ 学校行事

(ア) 新たに目標を示すとともに、これまでの「学芸的行事」を「文化的行事」と改めた。

(3) 特別活動と他教科・領域との関連

ア 道徳の時間との関連

(ア) 特別活動の目標に、道徳の時間の目標と共通の「自己の生き方についての考えを深め」を示したことを踏まえ、それぞれの違いを十分に理解した上で、道徳の時間との関連を図って日常生活における道徳的実践の指導の充実を図る必要がある。

(イ) 特別活動では、実際に児童が実践活動や体験的な活動を通し考えを深めるようにし、道徳の時間では、読み物資料などを通し自己の生き方についての考えを深めるようにする。

イ 総合的な学習の時間との関連

(ア) 両者の大きな違いは、目標を達成する手段において見られる。特別活動は、「望ましい集団活動を通して」であるのに対して、総合的な学習の時間は、「横断的、総合的な学習や探究的な学習を通して」と示されている。

(イ) 図1のように、遠足・集団宿泊的行事である「自然教室」の中に、環境学習（総合的な学習の時間）の探究学習も設定できる。

(ウ) 新たに、総合的な学習の時間の学習活動が、特別活動の目標や内容と同等の効果が得られる場合、総合的な学習の時間の実施によって、特別活動の学校行事の実施に替えることができることとする規定が設けられている。

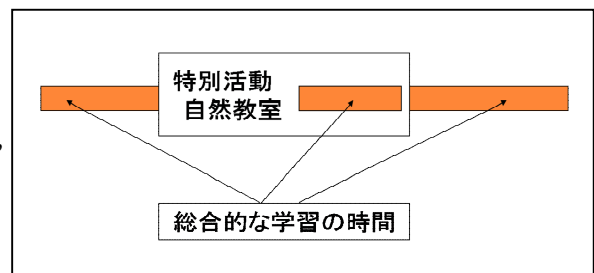


図1 集団宿泊的行事への環境学習の設定例

〔資料〕 目標及び内容の改善とポイント解説

| | 目標及び内容の改善 (下線は、全体目標との共通箇所) | ポイント解説 |
|-------|---|--|
| 学級活動 | <p>【目標】 学級活動を通して、<u>望ましい人間関係を形成し</u>、<u>集団の一員として学級や学校におけるよりよい生活づくりに参画し</u>、諸問題を解決しようとする<u>自主的、実践的な態度や健全な生活態度を育てる</u>。</p> <p>【内容】</p> <p>〔共通事項〕</p> <p>(1) 学級や学校の生活づくり ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決 イ 学級内の組織づくりや仕事の分担処理 ウ <u>学校における多様な集団の生活の向上</u></p> <p>※太字は、新しく加えられたもの。</p> | <p>(1)(2)の〔共通事項〕の特色</p> <p>○ (1)は、「集団で話し合い、集団目標を決定し、集団で実践すること」で、(2)は、集団で話し合い、個人目標を自己決定し、個人で実践すること。</p> <p>(1)ウ <u>学校における多様な集団の生活の向上</u></p> <p>○ 学級の係、異年齢交流集団、通学班等の活性化を図る。</p> <p>〔共通事項〕</p> <p>(2) 日常の生活や学習への適応及び健康安全 ア 希望や目標をもって生きる態度の形成 イ 基本的な生活習慣の形成 ウ 望ましい人間関係の育成 エ <u>清掃などの当番活動の役割と働くことの意義の理解</u> オ 学校図書館の利用 カ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成 キ <u>食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成</u></p> |
| 児童会活動 | <p>【目標】 児童会活動を通して、<u>望ましい人間関係を形成し</u>、<u>集団の一員としてよりよい学校生活づくりに参画し</u>、協力して諸問題を解決しようとする<u>自主的、実践的な態度を育てる</u>。</p> <p>【内容】</p> <p>(1) 児童会の計画や運営 (2) 異年齢集団による交流 (3) <u>学校行事への協力</u></p> | <p>※内容の取扱いにおける留意点</p> <p>・運営は、主として高学年の児童が行うこと。</p> <p>(3) <u>学校行事への協力</u></p> <p>○ 学校が主体となって行う行事と区別していく必要はあるが、児童が、計画の一部を担当したり、児童会の組織を活用して学校行事の運営に協力したりする活動を通して、児童相互の連帯感が深まるとともに活動の幅も広がり、児童会活動の充実にも結びつく。</p> |
| クラブ活動 | <p>【目標】 クラブ活動を通して、<u>望ましい人間関係を形成し</u>、個性の伸長を図り、<u>集団の一員として協力してよりよいクラブづくりに参画しようとする自主的、実践的な態度を育てる</u>。</p> <p>【内容】</p> <p>(1) クラブの計画や運営 (2) <u>クラブを楽しむ活動</u> (3) クラブの成果の発表</p> | <p>(2) <u>クラブを楽しむ活動</u></p> <p>○ 興味・関心をより深く追求していく喜びや計画したことが実現できた満足感、学級や学年が異なる仲間と協力して活動を進めることができた喜びなどが実感できるように指導する。</p> <p>※指導計画の立案に当たっての留意点</p> <p>・教科的な色彩の濃い活動を行う組織にならないこと。 ・目標が十分に達成できるような授業時数を取ること。</p> |
| 学校行事 | <p>【目標】 学校行事を通して、<u>望ましい人間関係を形成し</u>、<u>集団への所属感や連帯感を深め</u>、<u>公共の精神を養い</u>、協力してよりよい<u>学校生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる</u>。</p> <p>【内容】</p> <p>(1) 儀式的行事 (2) <u>文化的行事</u> (3) 健康安全・体育的行事 (4) 遠足・集団宿泊的行事 (5) 勤労生産・奉仕的行事</p> | <p>(2) <u>文化的行事</u></p> <p>平素の学習活動の成果を発表し、その向上の意欲を一層高めたり文化や芸術に親しんだりするような活動を行う。</p> <p>○ 児童が学校生活を楽しく豊かなものにするため、互いに努力を認めながら協力して、美しいもの、よりよいものをつくり出し、互いに発表し合うことにより、自他のよさを見付け合う喜びを感得するとともに、自己の成長を振り返り、自己を伸ばそうとする意欲をもてるようにする。</p> <p>○ 文化や芸術に親しみ、美しいものや優れたものに触れることによって豊かな情操を育てる。</p> |

3 新学習指導要領の趣旨を生かした授業づくり

- (1) 集団活動の目的を明確にし、全員で共有するための話し合い活動の設定
- (2) 目的に照らし合わせた反省を行うための集団活動後の話し合い活動の設定
- (3) 集団活動によって自分がどう活動し、成長したかを振り返らせる自己評価の位置付け

4 指導の先行実施

- ・平成21年度及び平成22年度の第1学年から第6学年までの特別活動の指導に当たっては、現行の学習指導要領の規定にかかわらず、新しい学習指導要領の規定により先行実施。